

メ呼出サル、者へ附添ヲ命スル者往復并滞留中左ノ通支給スヘ  
シ

但推糺ノ爲メ手鎖繩付等ニテ護送及檻倉入圈中等官費ヲ以仕  
賄ノ時日ハ別ニ給セス

金五拾錢

旅費日當

金三拾錢

滞留日當

一該廳ヨリ片道二里以上十里迄ハ旅費日當一日分ヲ給シ爾餘一日  
十里詰ヲ以テ往返共之ヲ給シ滞在中ハ其日數ニ應シ滞留日當ヲ  
給スヘシ  
トス一里以上ノ端里數一里ニ滿タサルハ切捨

但シ二里未滿ノ地ヨリ呼出セシ者ハ辨當料金二錢五厘ヲ給  
ス

一各裁判所裁判所無之地ヨリ呼出ヲ受テ無罪ニ歸スルモノ旅費ハ

其呼出タル裁判所裁判所無之地ヨリ之ヲ給ス其他ハ總テ本管廳

寄留ノモノハ其ヨリ給スルニ付証人及附添ヲ命スル者等ノ如キ

寄留地ノ管轄廳  
ハ間糺中ノ日數并ニ往復里程ヲ詳記シ其裁判官ノ証印ヲ請ケ旅  
費受取方ヲ申請スヘシ

第六拾四號

奥羽地方

御巡幸來ル六月二日東京 御發輦被 仰出候條此旨布告候事

明治九年五月六日

太政大臣三條實美

第六拾五號

明治八年<sup>五月</sup>第九拾三號布告控訴上告手續第十八條へ但書左ノ通追  
加候條此旨布告候事

明治九年 五月十日

太政大臣三條實美

第十八條 上告ニ付テハ云々

但内國人ヨリ裁判外ノ人民ニ對シ又ハ裁判外ノ人民ヨリ内  
國人ニ對スル上告ハ原裁判ノ執行ヲ停ムヘシ



乙第六十五號

府 縣

院省使廳官用地之内ニ有之官舎ヲ貸渡候節借  
地料取立方之儀ハ其地方廳於テ取調候答ニ付  
貸渡之都度該廳ヨリ通知有之候ハ、相當ノ借  
地料取調當省へ可申出收入之儀モ季節ニ至リ  
該廳ヨリ請取上納方之儀ハ昨年當省乙第二十  
一號達之通可取計此旨相達候事  
但從前貸渡有之分モ收入手續之儀ハ本文之  
通可相心得事

地

明治九年五月十九日

内務卿大久保利通

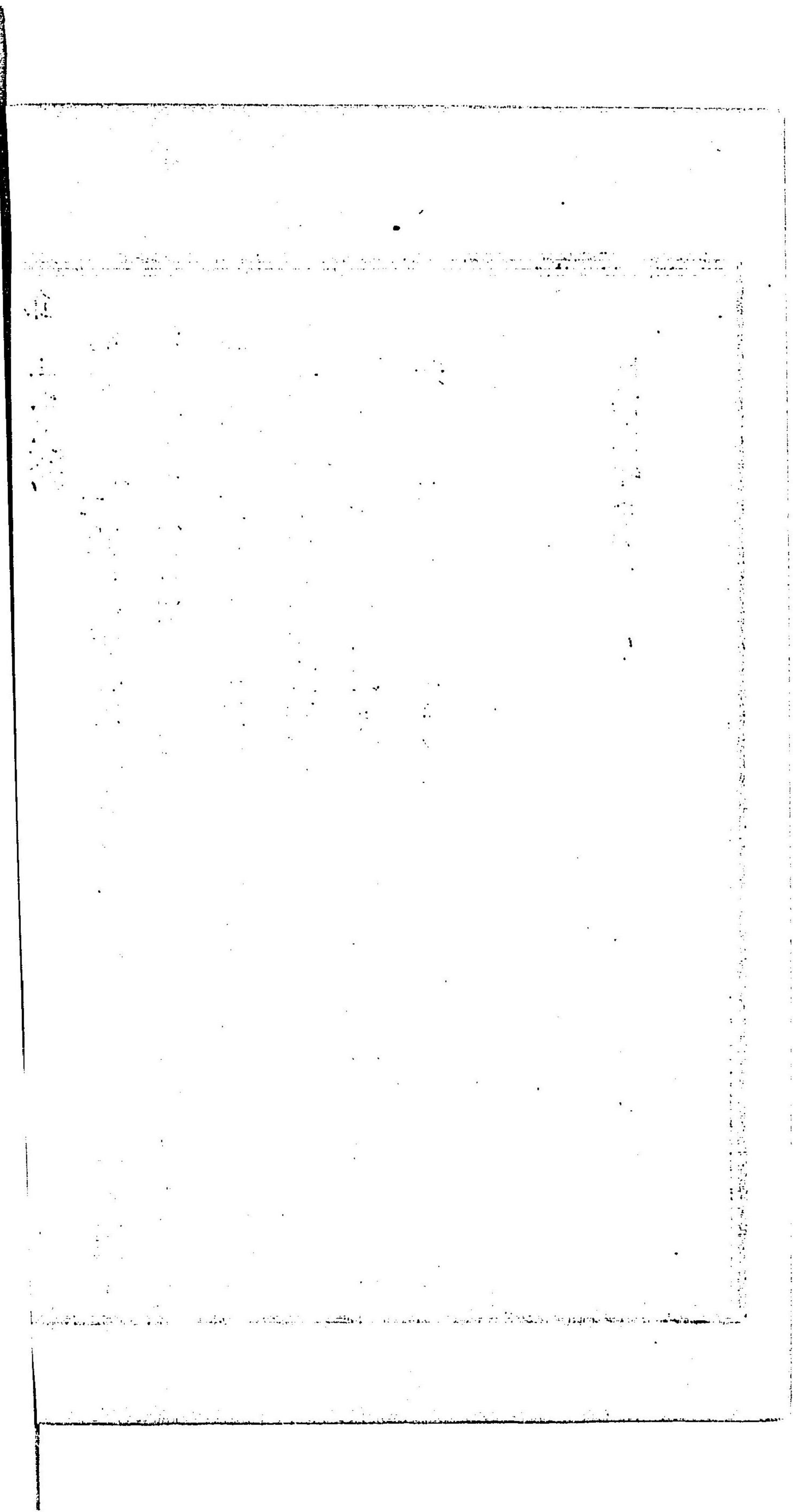
第

六拾六號

明治三年<sup>十二月</sup>社寺領現境內ヲ除クノ外上地ノ儀布告候處朱黑印除  
地上地ノ中内實ハ賣買又ハ質地ト相成候者モ有之哉ノ趣不都合ノ  
至ニ候得共此布告以前ニ係ルモノハ特別ノ詮議ヲ以其罪ヲ問ハス  
更ニ民有地トナシテ差支無之分ハ賣買地ハ買得者へ流質地ハ質取  
主へ其儘無代價ニテ下渡シ質地年限中ノ分ハ請返シ上地セシムへ  
ク若シ此布告以後ニ係ルモノハ律ニ照シ處分スヘク候條此旨布告  
候事

明治九年五月十二日

太政大臣三條實美





乙第六十六號

府 縣

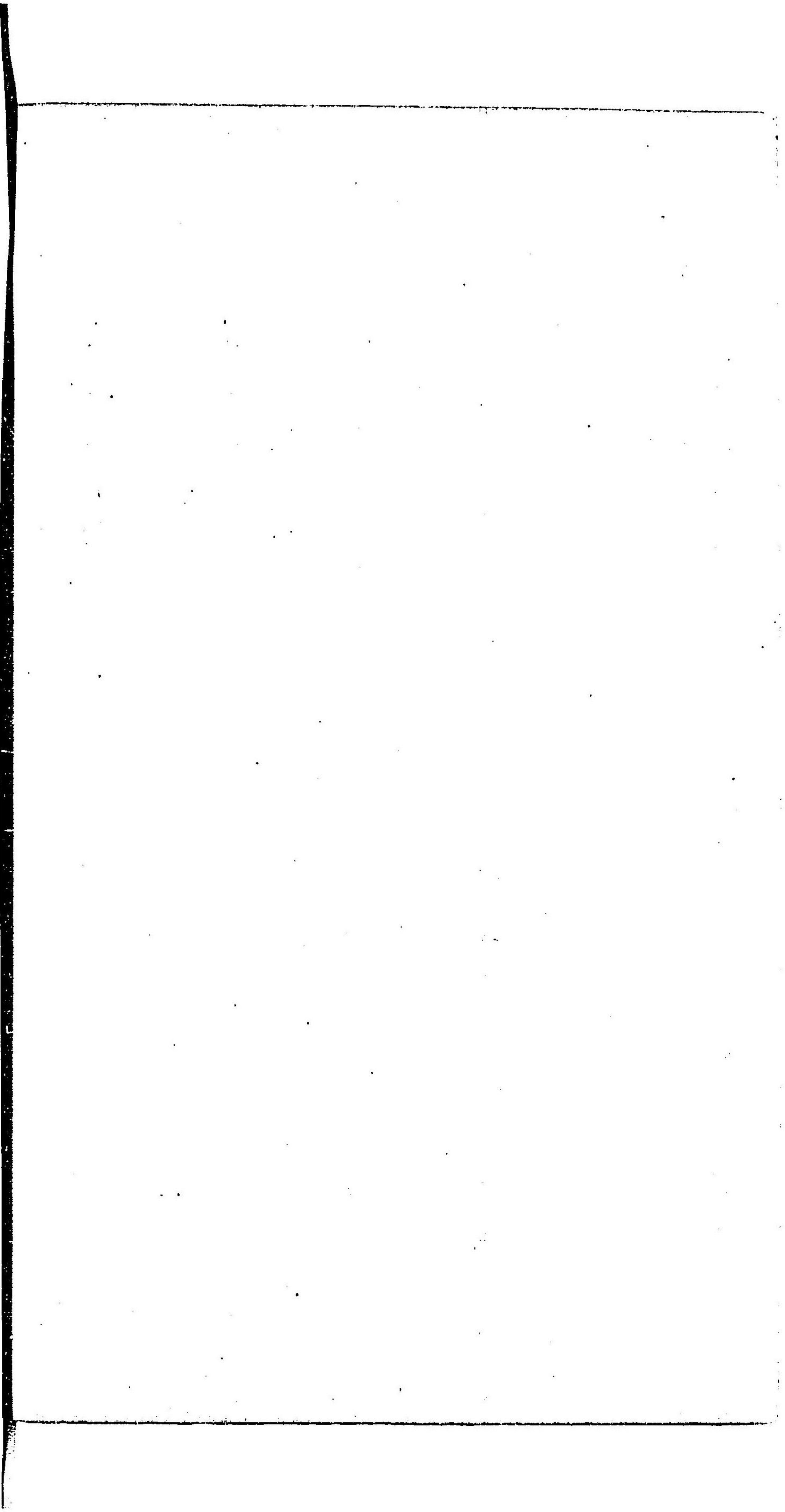
拙者儀

御巡幸爲御先發今廿三日出發致候ニ付留守中  
内務少輔林友幸へ代理爲致候條此旨相達候事

明治九年五月廿三日

内務卿大久保利通

庶



第六拾七號

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年<sup>九月</sup>大藏省第百貳拾六號布  
達地券渡方規則中第二十一條及明治六年<sup>九月</sup>第三百拾五號ヲ以及布  
告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被相定候條此旨布告候事

明治九年五月十二日

太政大臣三條實美

第一條

隱田切開切添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申  
出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正  
濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論渾テ律ニ照シ處分スヘシ

### 第二條

廉落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

### 第三條

官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ証アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キ

モノハ直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モユレアルヘシ

### 第四條

前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

### 第五條

前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリテ未タ地代金ヲモ納メスシテ未着手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以其者へ可拂下其地代金ヲ納メスル已ニ着手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

### 第六條

凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ  
係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ  
差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主ヘ其儘無代價ニテ  
下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地  
ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律  
ニ照シ處分スヘシ

第  
六拾八號

地租改正調査ニ臨ミ丈量濟收穫價適當ノ見据相立一郡一區内ニ就  
テ人民過半承服ノ場合ニ至ルト雖モ其一部分ノミ私見ヲ張り承服  
セサル者有之節ハ近傍類地等ノ比準ヲ取り相當ノ地價ヲ定メ地券  
相渡收稅申付候條此旨布告候事

明治九年 五月十二日

太政大臣三條實美

第六拾九號

明治六年<sup>七</sup>月第二百五十六號布告各地方違式註違條例左ノ通改正追  
加候條此旨布告候事

明治九年五月十二日

太政大臣三條實美

第二條 註違ノ罪ヲ犯ス者ハ五錢ヨリ少ナカラス七拾錢ヨリ多カ  
ラサル贖金ヲ追徵ス

第六條 違式ノ罪目ヲ犯スト雖モ情狀輕キ者ハ減等シテ註違ノ贖  
金ヲ追徵シ註違ノ罪目ヲ犯スト雖モ重キハ加等シテ違式ノ贖金  
ヲ追徵スヘシ其犯ス處極メテ輕キハ止テ呵責シテ放免スルコト

ルヘシ

第七拾號

静岡縣下伊豆國田方郡地内玉澤ヲ同國君澤郡へ編入玉澤村ト稱シ  
候條此旨布告候事

明治九年五月十五日

太政大臣三條實美

ルハシ

第七拾號

静岡縣下伊豆國田方郡地内玉澤ヲ同國君澤郡へ編入玉澤村ト稱シ  
候條此旨布告候事

明治九年五月十五日

太政大臣三條實美



於小冊

郵政總局前事務

郵政總局前事務

四月廿五日

大正三年

第七拾壹號

郵便切手半錢ヲ五厘ト改メ壹錢貳錢共左ノ見本ノ通改正候條此旨  
布告候事

但當分從前ノ切手取交相用不苦事

明治九年五月十七日

大政大臣三條實美



第七拾貳號

開港場アル縣令勅任官タルコヲ廢シ自今一般官等相當奏任タルヘ  
ク此旨布告候事

明治九年五月十八日

太政大臣三條實美

第七拾三號

各地方ニ於テ訴訟用罫紙賣切レ之カ爲メ出訴人出訴期限ノ盡ント  
スル時ハ尋常白紙ニ相認メ罫紙賣切候旨ヲ添書シ出訴可致此旨布  
告候事

明治九年三月十八日

太政大臣三條實美

第七拾四號

改定律例中私借官物律例ヲ廢シ雇人盜家長財物律例左ノ通改正候  
條此旨布告候事

明治九年五月十九日

太政大臣三條實美

改正雇人盜家長財物律

凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ管守者ハ  
又一等ヲ加ヘ並ニ罪懲役終身ニ止ル

竊盜條例

凡客塵倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ

盗ム者ハ並ニ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ル

第七拾五號

明治六年<sup>月一</sup>第貳拾八號第五項及ヒ同年<sup>月八</sup>第三百壹號ヲ以テ合家ノ儀布告候處詮議ノ次第有之自今被禁止候條此旨布告候事  
但從前既ニ合家セシ分ハ今後左ノ通可取扱事

明治九年五月二十日

太政大臣三條實美

一分家セント欲スルモノハ其合家セシ本人ノ一代中ニ限り復舊スルヲ許ス其子孫ニ至テハ七年第七拾三號布告分家ノ例ニ據ルヘシ  
一戸籍記載方及ヒ刑律上ノ關涉ニ於テハ戸主ノ血屬ハ等親ニ依リ

其血屬ナキハ等親外ノ親屬タルヘシ  
一士族平民合家セシモノハ總テ士族ニ編入スヘシ

第七拾六號

華族ノ輩金穀貸借証文及其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家  
何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ名印ヲ用フヘシ若  
シ本人ノ名印ナキモノハ其効無之儀ト可相心得此旨布告候事

明治九年五月二十二日

太政大臣三條實美

第七拾七號

三瀨縣管下肥前國杵島郡并松浦郡ノ内村々長崎縣へ管轄被  
仰付  
候條此旨布告候事

明治九年五月廿四日

太政大臣三條實美

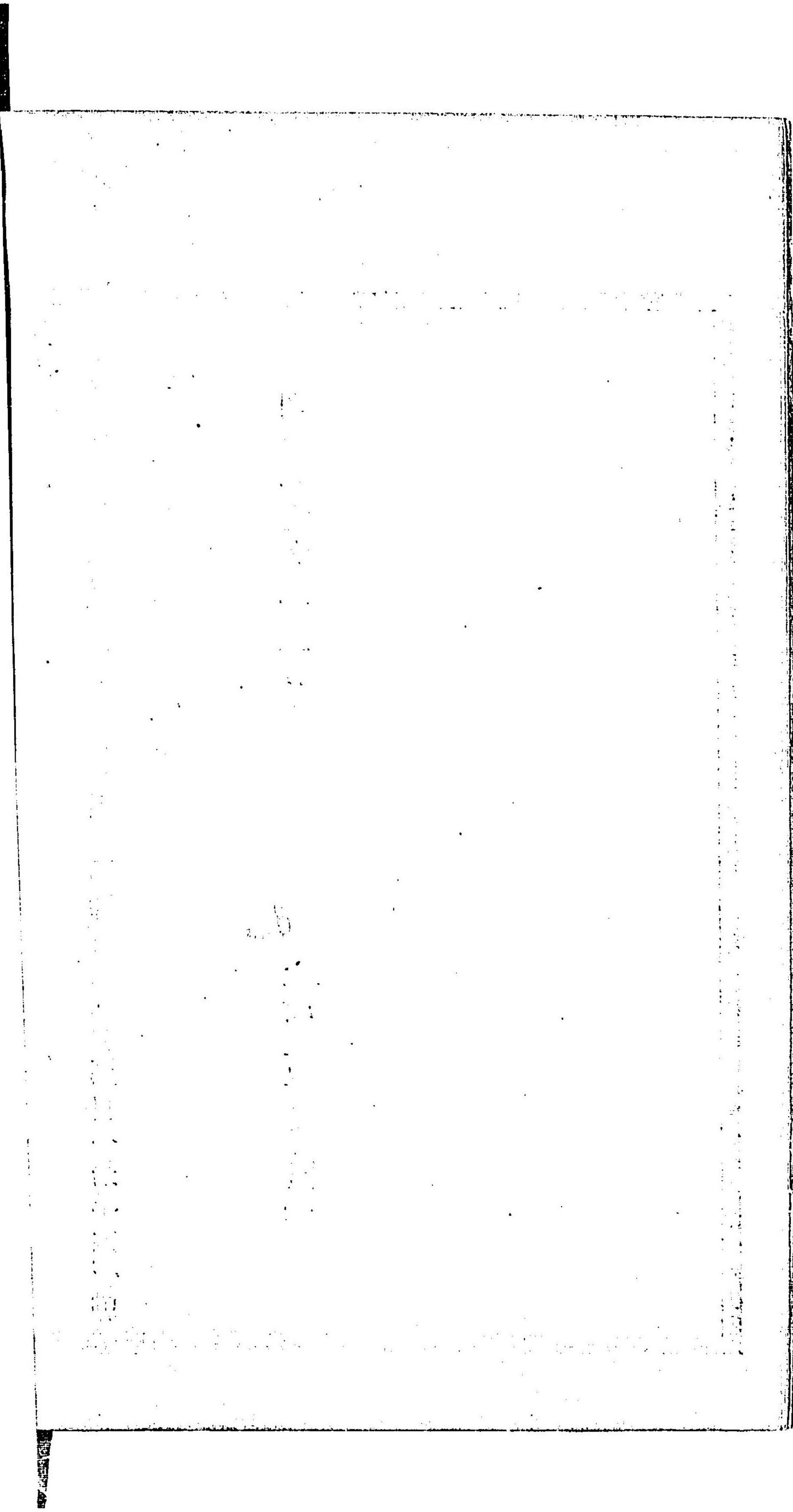
第七拾八號

宮城縣管下陸前國氣仙郡青森縣管下陸奥國二戶郡自今岩手縣管轄  
被 仰付候條此旨布告候事

明治九年五月廿五日

太政大臣三條實美





欠

MISSING

第八拾號

皇子女御降誕ノ節ハ自今宣下ニ及ハス直ニ親王内親王ト稱セラル  
ヘク被 仰出候條此旨布告候事

明治九年五月三十日

太政大臣三條實美

第八拾壹號

明治八年九月第百三拾五號布告出版條例中へ第三十一條追加候條此  
旨布告候事

明治九年五月三十一日

太政大臣三條實美

第三十一條

都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手數料  
トシテ金三拾錢ヲ納ムヘシ  
但收納方ハ免許料ト同様タルヘシ

第八拾號

西洋形商船船長運轉手機關手試驗規則別冊ノ通相定候條此旨布告  
候事

但試驗所其他詳細ノ儀ハ受驗志願ノ者ヨリ直ニ驛遞寮へ可伺出  
事

明治九年六月六日

太政大臣三條實美

西洋形商船々長運轉手及ヒ機關手試験免狀規則

此規則ハ船長運轉手及ヒ機關手約定總則及ヒ試験免狀章程ノ  
兩款ニ分ツ

此兩款ハ航洋船ニ施行スルモノニシテ湖川、港灣、内海、或ハ海  
峽中ニ限り運用セル船ニ施行セサルモノトス

船長運轉手及ヒ機關手約定總則

### 第一條

明治第十年第一月一日ヨリ以後(海軍諸艦ヲ除キ)登簿噸數一百公稱  
馬力五十以上ノ西洋形航洋船ノ船長運轉手或ハ機關手タル者ハ何人  
タリモ此規則ニ遵テ發出シタル免狀ヲ受有スルニアラサレハ其職ヲ  
執ルヲ許サス

第二條

船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ分ケテ甲乙兩種トナス即チ本免狀假免狀是ナリ

(甲)本免狀ハ後ニ記載セル本則ノ條款或ハ内務卿ノ命令或ハ其他須要ナル順叙ニ從ヒ試験ヲ了リタル人ニ授與ス

(乙)假免狀モ亦後ニ記載セル假則ノ條款ニ照シテ之ヲ授與ス然レモ明治十五年第一月一日以後ハ總テ之ヲ廢止スヘシ

第三條

第一條ニ記載セル日月以後ハ登簿順數一百以上四百以下ノ航洋船ハ其等級ニ適セル本免狀若シクハ假免狀ヲ受有スル船長及ヒ一等運轉手ヲ乘組シメ又登簿順數四百以上ノ航洋船ハ其適等ナル本免狀ヲ受

有スル船長一等運轉手及ヒ本免狀若クハ假免狀ヲ受有スル二等運轉手ヲ乘組マシメ公稱馬力五十以上一百以下ノ航洋船ハ適等ナル本免狀若シクハ假免狀ヲ受有スル一等機關手ヲ乘組マシメ又公稱馬力一百以上二百以下ノ航洋船ハ其適等ナル本免狀若クハ假免狀ヲ受有スル一等及ヒ二等ノ機關手ヲ乘組マシメ又其船二百馬力以上ナレハ一等機關手ハ其適等ナル本免狀ヲ受有シ二等機關手ハ本免狀若シクハ假免狀ヲ受有スルモノヲ乘組マシメサレハ其出港ヲ許サス  
前ニ記載セル其適等若シクハ高等ナル免狀ヲ所持セス或ハ所持シ能ハスシテ其職ヲ執リ出港セシモノ及ヒ此規則ニ遵テ要スヘキ免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ否ヤヲ推究認定セスシテ之レヲ使役スルモノハ何人ヲ論セス貳百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第四條

内務卿ハ船長運轉手及ヒ機關手試験ノ章程ヲ時々受験人ノ適度ニ隨  
ヒ又其場合ノ肝要ナルニ應シテ改正シ其司驗官ヲシテ之ヲ實施セシ  
ムヘシ

第五條

受験人ハ試験章程ニ掲載セル手数料若クハ内務卿ヨリ其都度々々命  
シ定ムル所ノ金額ヲ納ムヘシ 此金額ハ手数料ヨリ少ナキモノトス 但シ是等ハ試験ノ前  
ニ其筋吏員ニ交付ス可シ

若シ受験人落第セルハ既ニ納メシ手数料ノ半額ヲ還付スヘシ

第六條

後ニ記載スル條款ニ從ヒ受験人ノ試験ヲ完了シ且技藝其等ニ應シ性

質行狀善良ナルノ明証アリ其他各般皆所要ニ適セリト司驗官ヨリ報  
告セハ内務卿ハ第三條ニ記セル免狀ノ階級ニ照シ若干噸數若シクハ  
若干馬力航洋船ノ船長或ハ一等若シクハ二等運轉手或ハ一等若クハ  
二等機關手タルヘキヲ証スル免狀ヲ本人ニ授與スヘシ  
若シ同卿ニ於テ其報告ヲ未タ信實ナラスト思察スルハ更ニ前度ノ  
司驗官或ハ他ノ司驗官ニ命シテ再ヒ之ヲ試験セシメ且其受験人ノ証  
書及ヒ行狀等ヲ審究シテ後之レニ免狀ヲ授與スヘシ

第七條

内務省ハ簿冊ヲ製爲シ授與セシ每號ノ免狀及ヒ司驗官ノ氏名等ヲ登  
記シ他日ノ証ニ供ス

船長其他若シ其受領セル免狀ヲ亡失或ハ竊取セラレ其自己ノ過失ニ



アラサルヲ証明シ得ルトキハ簿記ニ照ラシ更ニ免狀ヲ作テ之ヲ授  
與スヘシ

更ニ授與セル免狀ニハ再授ノ文字ヲ記スト雖其効驗ハ都テ原免狀  
ト異ナルナシ

此場合ニ於テハ本途試験料ノ半額ヲ納ムヘシ

第八條

船長若クハ船主其備使スル海員船長ヲ除クノ外一切ノ  
船中乗組人員ヲ云フト取結フヘキ  
傭入雇止約定書ヲ其掛リ吏員ノ眼前ニ於テ調印スルキ前ニ記載セル  
規則ニ照應シタル其船長運轉手及ヒ(汽船ナラハ)機關手ノ免狀ヲ其  
吏員ニ出シテ檢査ヲ受クヘシ(雇入雇止規則ハ道ヲ制定布告スヘシ)  
此吏員之ヲ檢シテ眞正且充全ナリト思惟スルキハ則チ其檢査証書ヲ

作リ之ヲ授與セル月日及ヒ海員雇入雇止約定満期ノ月日ヲ記載シテ

其船長若クハ船主ニ授與スヘシ

右約定期限中船長運轉手(汽船ナラハ)機關手ノ交替アルキハ更ニ其  
船長若クハ船主ヨリ前節ノ如ク其免狀ヲ其掛吏員ニ出シテ再ヒ檢査  
証書ヲ受クヘシ

各船出港免狀ヲ請フキハ税關官吏へ前記ノ証書ヲ出スヘシ若シ此証  
書ヲ出サ、ルキハ税關官吏ハ出港免狀ヲ授與スヘカラス

若シ船長運轉手等ノ交替アルモ之ヲ其掛吏員ニ告知シテ書換証書  
(即チ檢査証書)ヲ得ルヲ怠リ或ハ税關官吏ニ此証書ヲ出スヲ无クシテ出港  
スルキハ貳拾五圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第九條

自己或ハ他人ノ爲メニ免狀ヲ受ケンヲ謀リ詐僞ヲ以テ之レヲ願請スル者或ハ人ヲシテ之ヲ願請セシムル者或ハ之ヲ助力スル者或ハ免狀ヲ贋造スル者之ヲ助力スル者及ヒ人ヲシテ贋造セシムル者之ヲ助力スル者或ハ故意ニ免狀ヲ變更スル者之ヲ助力スル者又ハ人ヲシテ之ヲ變更セシムル者或ハ贋造若シクハ變更或ハ取消シ若シクハ停止セラレシ免狀ヲ故意ニ使用スル者或ハ免狀ヲ所有スルヲ得スシテ之ヲ使用スル者或ハ免狀ヲ他人ニ貸付スル者或ハ他人ヲシテ之ヲ使用セシムル者ハ五百圓以内ノ罰金ヲ科シ或ハ六月以内ノ禁獄或ハ懲役ニ處ス

第十條

内務卿ハ各船長運轉手或ハ機關手ノ技藝劣等若クハ粗暴ナルカ或ハ

不行狀ニシテ其職務ヲ執ルニ不適當ト思察スルキハ直ニ之ヲ審究或ハ審究セシムヘシ而シテ左ニ掲クル場合ニ於テハ其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止スヘシ

第一 亂醉 不行狀 粗暴 指揮ニ悖戾ス 職務ニ怠ル者

第二 其失錯又ハ不良ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ捨テ或ハ之レ

ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ナヒ或ハ人ニ大傷殘ヲ被ム

ヲシムル者

第三 他ノ甚シキ罪科ヲ犯セシ者

凡ソ船長運轉手及ヒ機關手ヲ論セス一旦其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラレタルキハ其免狀ヲ内務省若クハ其筋ノ官廳ニ取揚ケ且其失錯ニ就テ貳百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

其掛り吏員ハ其免狀ヲ取消シ或ハ其所用ヲ停止セラレタル者ヲ一百  
噸以上又ハ五十馬力以上ノ航洋船ノ船長運轉手若クハ機關手トシテ  
其職ヲ執ラシムヘカラス

又何等ノ人タリモ其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラレタル  
者ヲ船長運轉手或ハ機關手トシテ其職業ニ備使スルヲ許サス若シ其  
情狀ヲ知テ之ヲ使役スル者アラハ貳百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ  
一旦其免狀ヲ取消サレタル者ト雖モ爾後内務卿ノ適當ト思考スル場  
合ニ於テハ再ヒ同等若クハ下等ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

### 第十一條

前ニ掲載セル犯罪者ハ裁判所若クハ其筋ノ官員ニ於テ之ヲ審斷スヘ  
シ

### 第十二條

裁判所若クハ其筋ノ官員相當ノ糺彈ヲナセシ上罰金ノ額ヲ決スルモ  
ハ現時或ハ他日本人ノ受ケ取ルヘキ給金若シクハ其他ノ金額ヨリ之  
ヲ納メシムルコトアルヘシ但シ船主若シクハ本人ヲ雇使スル者其裁判  
所若クハ其筋ノ官員ヨリ其旨ノ命令狀ヲ受取ルニ於テハ現時或ハ他  
日本人ニ渡スヘキ給料若クハ其他ノ金額中ヨリ其罰金ヲ引去リ之ヲ  
上納スヘシ

船主若クハ傭主タル者其傭使スル船長等ニ裁判スヘキ事件ヲ生スル  
モハ其裁判未決ノ間ハ之レニ給料及ヒ其他ノ金額ヲ與フヘカラス若  
シ其裁決ヲ終ヘサル間ニ故ナク之レニ給料其他ノ金額ヲ與ヘ又ハ命  
令狀ヲ受取リタル上條理ナクシテ其罰金ヲ拂フコトヲ怠ルモハ其貳倍

ノ罰金ヲ科スヘシ

第十三條

犯罪者其處決ニ服セサル者ハ一般ノ規則ニ遵テ控訴上告スルヲ得ヘシ

船長運轉手及ヒ機關手試験免狀章程

第一條

船長運轉手及機關手ノ試験ハ東京ニ於テ毎月第一及ヒ第三ノ火曜日ニ執行スヘシ又其事宜ニ由リ他所ニ於テモ之ヲ執行スルコトアルヘシ然ルキハ其趣ヲ三十日以前ニ廣告スヘシ

前ニ記載シタル定日ノ外タリテ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時

試験ヲ願フ者アレハ何日ヲ論セス司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ執行スヘシ但其受験人落第スルモ既ニ納メシ別段手数料ハ返附スルコト無シ

第二條

受験人ハ其試験ノ日ヨリ少クモ一日以前ニ其氏名貫籍及ヒ其性質行狀善良ニシテ實地經歷アルノ證書ヲ証人ヲ以テ差出スヘシ其證書ナケレハ何人ニテモ試験ヲ許サス

第三條

受験人ハ其證書ヲ出スキ左ニ掲載スル試験料ヲ其試験所ニ納ムヘシ

第一則ニ從ヒ本免狀ノ試験料

船長

金拾五圓

全上

既ニ一等運轉手ノ本免狀ヲ所持スルモノ

全拾圓

一等運轉手

全拾圓

全上

既ニ二等運轉手ノ本免狀ヲ所持スルモノ

全五圓

二等運轉手

全五圓

一等機關手

全拾五圓

全上

既ニ二等機關手ノ本免狀ヲ所持スルモノ

全拾圓

二等機關手

全拾圓

第一則ニ從テ試験ヲ受ケタル者若シ落第スルキハ其試験料ノ半額ヲ返附スヘシ

第二則ニ從ヒ本免狀ノ試験料

船長

金五圓

一等機關手

全五圓

第三則ニ從ヒ假免狀ノ試験料

船長

金七圓五拾錢

一等運轉手

全五圓

二等運轉手

全貳圓五拾錢

一等機關手

全七圓五拾錢

二等機關手

全五圓

第二及第三則ニ從ヒ試験ヲ受ケタル者落第スルニ其試験料ハ返附セサルヘシ

第四條

第一則ニ從ヒ上級ノ試験ヲ受ケ落第スルモ下級ノ試験ニ及第スル片ハ其應等ノ免狀ヲ受ケ得ヘシ然レ其試験料ノ一部分ヲモ返附セサ

ルヘシ

### 第五條

船長及ヒ運轉手ノ受験人測量學ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フキハ其最後落第ノ日ヨリ三ヶ月ヲ經サレハ再試ヲ許サス又船具運用學ノ試験ニ落第スル三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六ヶ月以上航洋船ニ乗組ミ實地修業スルニアラサレハ再試ヲ許サス

### 第六條

機關手ノ受験人紙上ノ問題ニ於テ落第スルモ爾後再試ニ堪ユヘキ學知ヲ充分セリト思考スルキハ何時ニテモ其再試ヲ願ヒ得ヘシ然レモ實地作業上ノ試験ニ落第スルキハ其落第ノ日ヨリ三ヶ月ヲ經サレハ再試ヲ許サス

### 第七條

船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル式及ヒ表ヲ用テ問題ヲ答ルヲ許ス故ニ其席上ニ自己ノ書籍ヲ携帯シ得ヘシ  
第一則ニ從フ試験ニ於テ其答題ヲ爲スノ時限ハ午前第十時ヨリ午後第三時マテ五時間ト定メ第二及ヒ第三則ノ試験ハ二時間ト定ム故ニ若シ此時限ヲ過テ其答題ヲ了ラサレハ則チ之ヲ落第者トナスヘシ

### 第八條

一等及ヒ二等機關手ハ特ニ後チニ記載スル條款且其本分ノ職務及ヒ其作業ニ就テ試験スルヲ緊要トス  
其受験人已ニ口上ノ試験ヲ能ク經了セハ更ニ筆上ノ問題ヲ授ケ其各自ノ平生慣用セル方法ヲ以テ之ニ答ヘシムヘシ

第一則ニ從ヒタル試験ハ午前第十時ヨリ午後第三時マテ五時間ヲ限  
リ第二及ヒ第三則ニ從フ試験ハ二時間ヲ限リテ其答題ヲ了ヘシムヘ  
シ

第九條

若シ他人ノ文案ヲ剽窃シ或ハ他人ノ告知ヲ得或ハ他人ト助力ヲ授受  
シ其他如何ナル手立ニ依ルトモ試験時間ニ他人ト往復セシテ發覺ス  
ルニ於テハ則チ之ヲ落第者ト見做スヘシ

第十條

試験問題ノ應答ハ石版若クハ反古紙ヲ用テ記スヘカラス  
其答題ヲ記シ了ラサル間ハ決シテ試験室ヲ去ルヘカラス

第十一條

總問題ヲ定時間ニ正シク應答シ了ルキハ則チ之ヲ試験及第者トナス  
ヘシ

第十二條

船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ計數ニ係ル問題ノ應答ニ於テ一里以外ノ  
誤算アルヘカラス

第十三條

機關手ノ受験人若シ其筆上ノ問題ヲ定時間ニ應答シ能ハスト雖ヒ既  
ニ其問題三分ノ二以上ヲ應答シ了リ且口上ノ試験其願請セル階級ノ  
機關手トナルニ充分適當セリト司驗官之ヲ思量スルキハ則チ之ヲ及  
第者ト公許スヘシ

第十四條

試驗課程

第一則 本免狀ヲ受クヘキ受験人ニ要スル技藝

〇二等運轉手

二等運轉手ハ必ス年齡十八歳ニ滿テ四ケ年以上海上ニ在リ或ハ二ケ年以上上海軍兵學寮或ハ三菱會社其他ノ商船學校ニ在テ修業シ航海運用ノ學科ニ於テ適合ノ試驗ヲ經テ後三ケ年以上海上ニアリシ者ニテ左ノ試驗課程ニ及第セルモノトス

測量學

通常往復文章ヲ作爲シ得ルヲ

加減乗除十分分數及對數用法

日課 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ經緯度  
向航程ニ羅針ノ偏差風壓等ヲ算入シテ本船所在ノ經緯度

ヲ求ム

起程已達兩地ノ經緯度ヲ以テ其針路航程ヲ瑪氏航法及ヒ中分

緯度航法ニ據リテ算定スルヲ

經度ヲ求ムル爲メノ大陽赤緯ヲ正スヲ

大陽子午線高度ニ依テ緯度ヲ算定スルヲ

出沒方位ヲ測定シテ羅針ノ偏差ヲ求ムルヲ

六分儀ノ用法ヲ熟知スルヲ

航海日誌ヲ記スヲ

船具運用學

索具取附方及ヒ取脫方

船内荷物積納方



沙漏時限及ヒ測程線測鉛線ノ尺度

帆船及ヒ漁船海上衝突豫防規則及ヒ暗霧ノ信號各國普通商船用信號旗用法

◎一等運轉手

一等運轉手ハ必ス年齡十九歲ニ滿テ五ヶ年以上海上ニ在リ其内一ヶ年以上二等運轉手ノ職ヲ執リシ者ニテ二等運轉手試験課程ノ外ニ左ノ試験ニ合格ナル者トス

測量學

平面三角法

方位角ヲ測量シ羅針ノ偏差ヲ算定スルコト

羅盤ニテ陸地ノ方位ヲ測リ或ハ現船所在ノ經緯度ニ由テ海圖

上ニ船舶ノ位置ヲ記スコト

潮時ノ算法

時辰儀ヲ比較シ及ヒ其遲速ヲ定ムルコト

太陽高度ト時辰儀ニ依テ經度ヲ測定スルコト

子午線外ノ太陽高度一ヲ以テ緯度ヲ算定スルコト

六分儀ヲ正スコト

船具運用學

錨泊ニ依テ船舶ヲ繫止メ又之ヲ解放チ安全ニ放泊スルコト

碇ヲ船外ヘ運ヒ出スコト

圓材及ヒ帆ノ取扱方

櫓及ヒ重荷ノ取入方及ヒ取出方

帆ヲ掛ケ帆ヲ仕舞フ

暴風ノ時船舶ノ取扱方

風下ノ陸地ヨリ船舶ノ避方

日本及ヒ支那海燈臺ノ位置

○船長

船長ハ必ス二十一歳以上ニシテ六ヶ年以上海上ニ在リ内一ヶ年ハ一等運轉手一ヶ年ハ二等運轉手ノ職ヲ執リシ者乎或ハ二ヶ年以上一等運轉手ニ在任シタル者ニテ一等運轉手試験課程ノ外ニ左ノ試験ニ及第セル者トス  
星象ニ依テ緯度ヲ算定スル  
地平儀ヲ用ヒテ測量シタル天體高度ニ依テ時辰儀ノ誤指日差ヲ定ムル

羅盤船内ノ鉄部ニ感動スルノ理

太陽及ヒ遠隔シタル物體ヲ測リ羅盤ノ自差ヲ算定スル  
船舶ノ方位ヲ定メ又ハ海圖ニ記載セル淺深ト測鉛ヲ以テ測量シタル淺深ト比較スル爲メニ測ノ満干方位等ノ定則ヲ了解シ得ル

破損等ニヨリ船舶ノ航海シ難キトキ假ニ之ヲ補理スル

難破ノ節乗組救助ノ手立

颶風ヲ避ル定規

日本海岸ノ地勢(燈臺礁標浮標港灣ノ位置)ヲ熟知スル

○二等機關手

二等機關手ハ年齢二十一歳ニ滿テ既ニ機械所ニ在ツテ少クモ三ヶ年

以上機械製造又ハ修繕ニ從事シ一ケ年以上海上ニ在テ機關室ノ職務ヲナセシ者乎又ハ少クモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニ在テ機關室ノ職務ヲナセシモノニテ左ノ試験課程ニ及第セル者トス

一 瀧罐ノ辨解瀧罐固定法及ヒ各種ノ辨嘴管ノ用法取扱方及ヒ其接合ノ方法

二 不慮ノ災害等ニ依テ生スル機關ノ損害ヲ正シ之ヲ補理スル

三 驗氣器 驗温器 驗液器 驗鹽器ノ用法

四 覆金ニ損害ヲ生シ及ヒ磨耗ヲ起ス源因ヲ洞察シ及ヒ改復スル

五 機關ノ部分不順ナルカ或ハ全ク破損セシキ一時假ニ之ヲ補理シ或ハ充分ニ之ヲ修理スヘキカ如何ヲ洞察スル

六 筆書ハ讀得ヘクシテ算術ニ於テハ加減乗除及ヒ十分分數ニ通スル

七 一般ニ行ハル、外輪及ヒ螺旋機關各種ノ辨解及ヒ機關内外諸部轉動ノ理

○一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ年齢二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ノ二等機關手ニ服從シタル者ニテ二等機關手試験課程ノ外ニ左ノ試験ニ合格ナル者トス

一 製造ノ爲メ機關及ヒ瀧罐各部ノ圖ヲ模寫スル

二 「インヂケートル」ヲ用ヒテ機械力ヲ算定スル

三 瀧罐安全弁上蒸氣ノ壓力及ヒ瀧罐ノ強弱ヲ算定スル

四 機關ノ肝要ナル部分ノ割合

五 滑弁及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スル

六 「サルフェスコонденセーション」蒸氣ヲ許多ノ水管外ニ通シ之

「シユベルヒーチング」蒸氣ヲ許多ノ管内ニ滿テシメ其外面及ヒ

蒸氣ヲ膨脹セシメ之ヲ用フル

七 算術ニ於テハ面體ノ求積法及ヒ開平方ヲ熟知スル

第二則 此則ニ據テ亦本免狀ヲ船長及ヒ一等機關手ニ授與

ス

第一明治十年一月一日以前ニ於テ未ダ全ク其級ノ試験ヲ受ケサルモ

既ニ登簿順數四百以上ノ航洋船ニ四ヶ年以上船長タリシモノニ

テ若シ内務卿ニ於テ本人ノ性質及ヒ實地經歷ノ事實其免狀ヲ授

與スルニ適當ト思考スルトキハ之レヲ授與スヘシ

然レトモ此受験人ニ就テハ羅盤船内ノ鉄部ニ感動スルノ理其自

差ヲ測定シテ方位ヲ正シ地平儀ヲ用ヒテ測量シタル高度ニ依テ

時辰儀ノ誤指日差ヲ定メ颶風避脫ノ方法及ヒ日本支那海岸ノ摸

様ヲ熟知スルヤ否ヤノ試験ヲ以テシ其他司驗官ノ其級ニ必用ト

思考スル他ノ事件ヲモ試験スヘシ

第二前ニ記載スル月日以前ニ未ダ全ク其級ノ試験ヲ受ケサルモ既ニ

公稱馬力二百以上ノ航洋汽船ニ四ヶ年以上一等機關手タリシ者

ニテ若シ内務卿ニ於テ本人ノ性質及ヒ實地經歷ノ事實其免狀ヲ

授與スルニ適當ト思考セルトキハ之レヲ授與ス可シ

然レトモ其受験人ニ就テハ凡ルフェスコонденセーション、シユ

ペルヒーチン<sup>イキズバシヨシ</sup>ビ蒸氣膨脹力ノ用面體積ノ算法及ヒ開平方ノ試験  
ヲ以テシ且ツ司驗官ノ其級ニ必用ト思考スル事件ヲモ試験スヘ  
シ

第三則 船長運轉手及ヒ機關手約定規則第二條ニ從ヒ授與  
スヘキ假免狀

- 一 船長ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第一月一日  
以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ一ケ年以上船長ノ職ニ在  
リシ者又ハ海軍大尉ノ任ニ在リシ者ニ與フヘシ
- 二 一等運轉手ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第一  
月一日以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ一ケ年以上一等運  
轉手ノ職ニアリシ者又ハ海軍中尉ノ任ニ在リシ者ニ與フヘシ

- 三 二等運轉手ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第一  
月一日以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ一ケ年以上二等運  
轉手ノ職ニ在リシ者又ハ海軍少尉ノ任ニ在リシ者ニ與フヘシ
- 四 一等二等機關手ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年  
第一月一日以前ニ於テ公稱馬力五十以上ノ航洋船ニ一ケ年以  
上機關手ノ職ヲ執リシ者ニ與フヘシ

凡テ假免狀ヲ願請スル者ハ既ニ記載ノ通り各適合ノ履歴アル者ニシ  
テ且第一則ニ遵ヒ夫々其年齡ニ適シ定數年間航海ニ從事セシ者ト区  
假免狀ヲ請求セント要スル船長一等二等運轉手ハ第一則ニ遵ヒ夫々  
其分ノ試験課程ニ係リ一問題ヲ應答シ且日本海岸ノ地勢(燈臺礁標  
浮標港灣ノ位置)ヲ實地通曉スルヲ要ス

假免狀ヲ請求セント要スル一等機關手ハ第一則一等機關手課程中第七項二等機關手ハ同則二等機關手課程中第六項ニ遵テ各其分ノ試験ヲ受クヘシ

第八拾三號

本年五月第六拾六號布告第五行中左ノ通更正候條此旨布告候事

明治九年六月六日

太政大臣三條實美

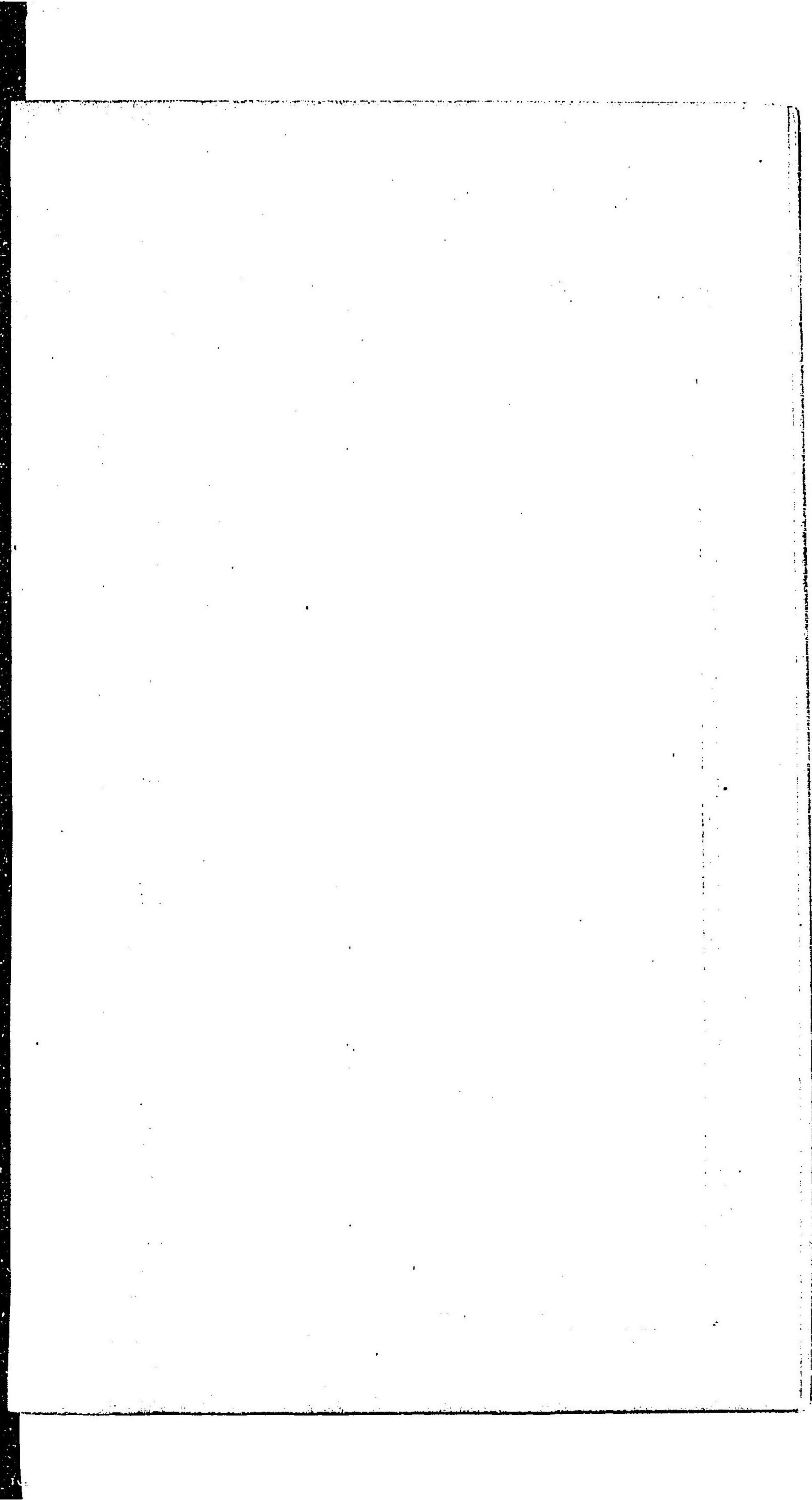
第五行

無代價ニテ下渡シノ下ヘ(其民有地トナシ差支アルモノ并)

十四字ヲ加フ

質地年限中ノ分ハ)ノ下(請返シ)ノ三字ヲ削ル







欠

MISSING

第八拾六號

改定律例第三百十八條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年六月十日

太政大臣三條實美

凡ソ罪ヲ斷スルハ證ニ依ル若シ未タ斷決セスシテ死亡スル者ハ其  
罪ヲ論セス

第八拾七號

三品内親王薰子尊來十六日府下第九大區二小區小石川豐島岡へ御  
葬送相成候條此旨布告候事

明治九年六月十二日

太政大臣三條實美

第八拾八號

明治七年<sup>十一月</sup>第一百貳拾號及八年<sup>七月</sup>第一百拾四號布告地所名稱區別中  
民有地ノ部第二種ヲ第一種ニ合セ第三種ヲ第二種ト相改候條此旨  
布告候事

明治九年 六月十三日

太政大臣三條實美

第八拾九號

本年<sup>五</sup>月第七拾貳號布告開港場アル縣令云々ノ上へ左ノ拾四字ヲ追加候條此旨布告候事

明治九年六月十五日

太政大臣三條實美

開港開市場アル府ノ權知事及ヒ

第九拾號

寫真條例別紙ノ通相定候條此旨布告候事

明治九年六月十七日

太政大臣三條實美

寫真條例

第一條

凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願ヒ出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之ヲ寫真版權ト稱ス  
但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス

第二條

版權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價并ニ版權免許ノ年月ヲ記載スヘシ

第三條

版權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付拾貳葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條

出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第二十二條第二十三條第二十四條及第二十六條ハ寫眞版權ニ適用スヘシ

但出版條例第二十六條但書ノ手數料ハ壹版ニ付六葉ノ定價ヲ納ムヘシ凡ソ願届等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ルヘシ

第五條

凡ソ圖書ヲ寫眞スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ルヘシ

第六條

第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現存ノ寫眞ヲ沒收シ壹圓ヨリ少カラス拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追

奪スヘシ

第七條

他人ノ版權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫眞ヲ沒收シ貳圓ヨリ少カラス貳拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

但原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セス



第九拾壹號

三瀨縣管下肥前國藤津郡自今長崎縣管轄被 仰付候條此旨布告候  
事

明治九年六月二十一日

太政大臣三條實美

第九拾貳號

郵便切手四錢五錢共左ノ見本ノ通改正候條此旨布告候事  
但當分從前ノ切手取交相用不苦事

明治九年 六月廿三日

太政大臣三條實美

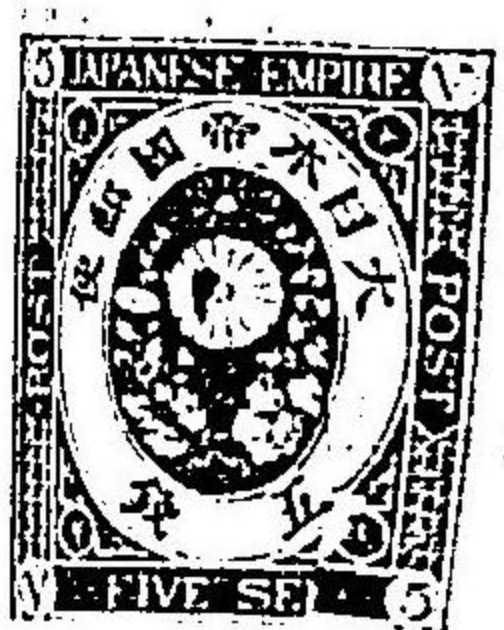


第九拾貳號

郵便切手四錢五錢共左ノ見本ノ通改正候條此旨布告候事  
但當分從前ノ切手取交相用不苦事

明治九年 六月廿三日

太政大臣三條實美



第九拾三號

明治九年郵便規則中左之通改正候條此旨布告候事

明治九年六月二十六日

太政大臣三條實美

郵便規則第二十四條 (地方管内官民  
往復ノ部)

一先拂及ヒ不足稅共其貳倍ヲ拂フニ不及事

同 第三十八條

一新聞紙云々末文每號貳錢ヲ可拂)ノ下へ(尤壹號ノ紙數貳拾枚以  
上ノモノハ此限外ニシテ書籍定稅ヲ可拂)ノ貳拾八字ヲ加フ

同 第五十條 (書籍類并見  
本品等ノ部)

一上版或ハ筆書ノ書籍并ニノ下ハ(新聞紙定時刊行物ト雖モ紙數  
貳拾枚以上ノモノ及ヒ)ノ貳拾三字ヲ加フ

第九拾四號

本年<sup>六月</sup>第八拾貳號布告西洋形商船船長運轉手機關手試驗規則別紙  
ノ通追加候條此旨布告候事

明治九年六月廿八日

太政大臣三條實美

西洋形商船船長運轉手及機關手試驗免狀規則追加

第一條

明治十年一月一日以後登簿噸數壹百未滿公稱馬力五拾未滿ノ運送  
汽船(湖川運用ノ分共)ニ乗組船長及機關手タル者ハ次ニ記載スル  
條款ニ遵ヒ技術ノ試驗ヲ受ケ其本分ノ免狀ヲ所持スル者ニアラサ  
レハ其職ヲ執ルヲ許サス

第二條

既ニ本則ノ試驗ヲ經テ免狀本ヲ所持スル船長機關手一等等ハ勿論運  
轉手一等等ト雖モ此條款ニ遵ヒ別ニ船長ノ免狀ヲ受ケサルモ運送汽  
船ノ船長タルヲ得ヘシ

第三條

運送汽船ハ第二條記載ノ月日以後其技術免狀ヲ所持スル船長及機  
關手各壹人以上乗組ニアラサレハ其運航ヲ許サス

#### 第四條

第一條ニ記載スル月日以後運送汽船ノ船長及機關手其適當ノ免狀  
ヲ所持セス或ハ所持シ能ハサル免狀ヲ所持シテ其職ヲ執リ其船ニ  
乗組ム者及其免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ否ヲ推究セス  
シテ之ヲ使役スル者ハ何人ヲ論セス貳百五十圓以内ノ罰金ヲ科ス  
ヘシ

#### 第五條

東京ニ於テハ毎月第二ノ木曜日ニ試験場ヲ開キ大坂ニ於テハ毎年  
一回若クハ二回其他長崎函館新潟ノ三港へ臨時試験官ヲ派出シ其

場ヲ開クヘシ

東京ノ外各地ニ於テ試験場ヲ開ク時ハ其開クヘキ場所及月日等ヲ  
少ナクモ三十日以前ニ廣告スヘシ

#### 第六條

受験人ハ本則試験章程第二條ニ掲クル如ク其氏名族籍年齢等ヲ詳  
記シ保証人ヲ立テ之ニ試験手数料トシテ金貳圓五十錢ヲ添へ試験  
ノ前日迄ニ其試験所ニ差出スヘシ

船長ノ受験人ハ試験願書ニ航行スヘキ地名ヲ記入スヘシ

#### 第七條

受験人ハ必ス滿貳拾歲以上ニシテ既ニ貳ケ年以上汽船運轉ニ從事  
シ左ノ問題ニ應答シ得ル者タルヘシ

船長試験課程

- 第一 普通ノ讀書
- 第二 汽船運用ノ方法
- 第三 羅針ノ用法
- 第四 海上衝突豫防規則
- 第五 船路ノ地勢及燈臺礁標浮標ノ位置(受験人平生定航スル地方ノ)  
機關手試験課程
- 第一 蒸氣ノ發成ヨリ機關ノ運動ヲ起サシムル迄ノ手續順序
- 第二 馬力ノ多少ニヨリ費消ノ石炭ニ増減アルコト及炭質ノ善惡ヲ辨知ス
- 第三 安全弁ノ用及其製作ニヨリ錘量ノ増減

第四 養罐水ノ方用

- 第五 罐及機關ニ不慮ノ破損ヲ生スル時適宜ニ之ヲ補理スル方法

- 第六 汽管或ハ水管ノ接續方及烟管ノ破損スル時之ヲ補理スルノ方法

右ニ掲クル問題ノ外時宜ニ依リ司驗官ノ意見ヲ以テ猶他ノ問題ヲ設ケ之ヲ増減取捨スルコトアルヘシ

第八條

此規則ニ記載スルノ外試験其他ノ諸則及罰則共總テ本則條款ノ通リタルヘシ



第九拾五號

戊辰ノ際諸軍出張先或ハ御用先ニ於テ調達金又ハ獻金獻米等致シ  
候者追々御返辨被游度候ニ付於府藩縣取調方ノ儀明治二年二月中  
御沙汰相成候處右ハ同年四月限り取調詮議可及答ニテ右期限後請  
求ノ儀願出候トモ採用不相成筋ニ候條此旨布告候事

明治九年 六月廿九日

太政大臣三條實美

第九拾六號

官方へ調達金届出方ノ儀是迄無期限証據有之分ハ公債ニ相立及處  
分候處届漏ニテ于今証文所持ノ者ハ勘定書相添來ル八月十五日限  
リ其管廳ヲ經テ大藏省へ可届出若シ右期限ニ後ノ何様情實申立候  
共一切採用不相成候條此旨布告候事

明治九年 六月廿九日

太政大臣三條實美

第九拾七號

徵兵令中徵兵編成并概則其中左ノ通増加并改正候條此旨布告候  
事

明治九年六月三十日

太政大臣三條實美

増加

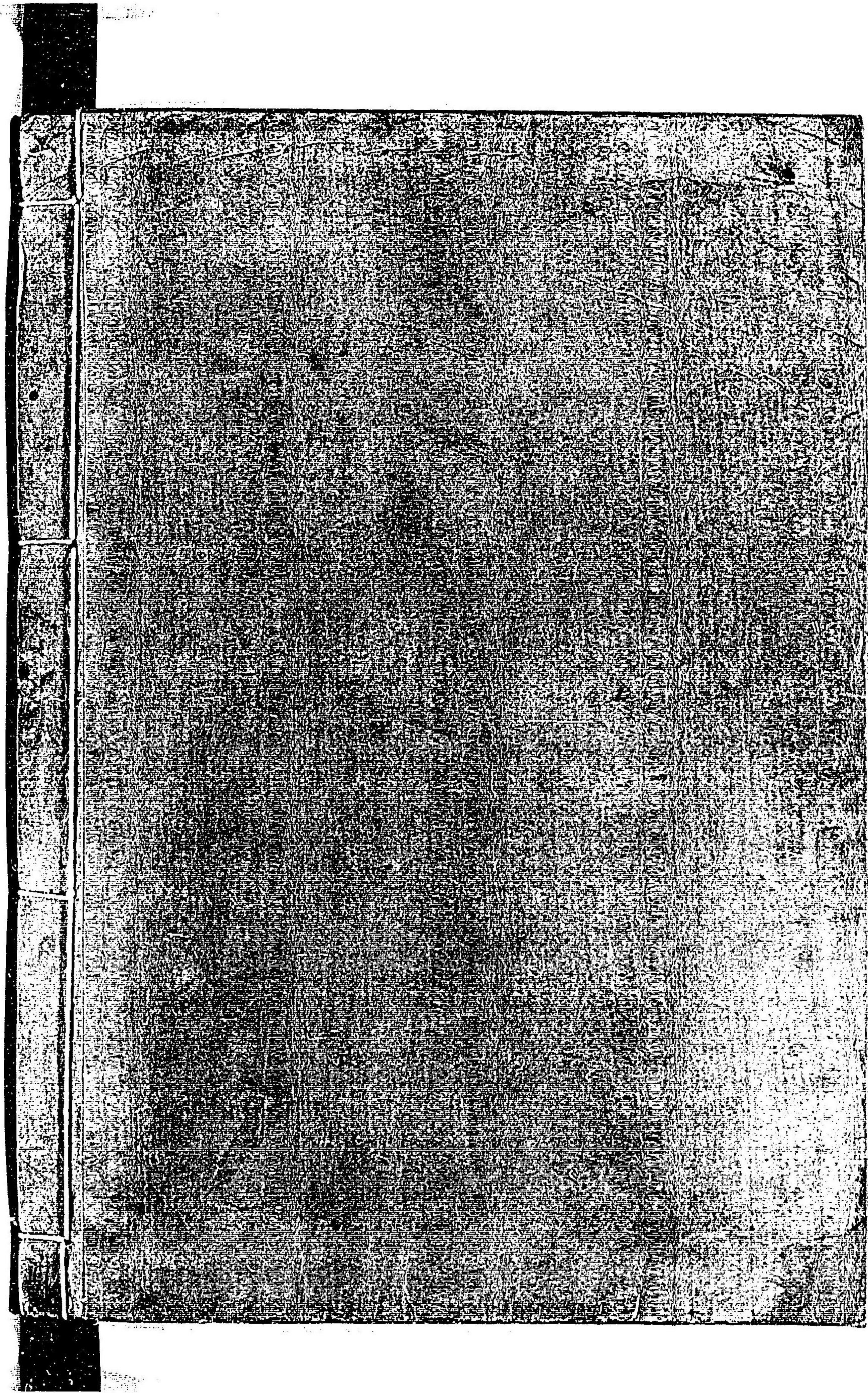
第三條 讀書算術ノ出來得ル者ハ検査格例ニ照シ拔擢シテ教導團  
ニ入レ卒業ノ上下士ニ任ヌ其學術秀逸ニシテ殊ニ行狀方正ナル  
者ハ又之ヲ拔擢シテ士官學校ニ轉入セシム

改正

第三條ヲ第四條トシ

陸軍勤仕ノ望アル者ハ願ニ從フテ検査ノ上教導團ニ入レ學業進歩ノ上拔擢採用スルコト亦上條ニ照準ス

第四條ノ(四)ヲ(五)第五條ノ(五)ヲ(六)第六條ノ(六)ヲ(七)トス



CZ  
4  
032



館書圖京東  
部一門新  
架三部一  
號〇二架類二

031000-000-5

CZ-4-032

正院布告 自卷号至九十七号

〔正院〕

〔刊年不明〕

BBC-0467

